

◎文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

朗読コンテスト(主催:文京区 主管:跡見学園女子大学)

◆本選 観覧者募集
録音審査通過者(一般の部・青少年の部 計16人)が、課題作品を朗読します。

日 時: 令和3年11月14日(日)13時~16時

会 場: 跡見学園女子大学プロッサムホール(大塚1-5-2)

定 員: 100人(抽選)

観覧料: 無料

申 込: はがき、FAX、メールに「朗読コンテスト観覧希望」郵便番号・住所・氏名・観覧人数・電話番号を明記し下記へ。締切は10月22日(金)必着。

問合せ: 跡見学園女子大学文京キャンパス事務室朗読コンテスト係
〒112-8687東京都文京区大塚1-5-2
FAX 03-3941-8333 E-mail d-chiiki@atomi.ac.jp

◎アカデミー推進課文化事業係

令和3年度文京区企画展「能〜ぶんきょうで育まれた宝生能楽堂〜展」(仮)

宝生会に協力を得て、会所蔵の能面や装束など26点の貴重な資料を公開します。あわせて友好交流都市である金沢市の協力を得て、加賀宝生の歴史等をパネルで紹介いたします。なお、本展は令和3年2月に開催予定でしたが、コロナ禍で延期となり、今回満を持しての開催となります。

会 期: 令和4年2月19日(土)~26日(土)午前10時~午後6時

会 場: 文京シビックセンター1階 ギャラリーシビック(春日1-16-21)

入場料: 無料

主 催: 文京区

協 力: 宝生会・金沢市

問合せ: アカデミー推進課文化事業係
〒112-8555東京都文京区春日1-16-21
TEL 03-5803-1120



※新型コロナウイルス感染症防止対策のため、展示及び事業の日程及び内容に変更・中止が生じる場合があります。最新情報は、ホームページ・区報にてお知らせします。

令和3年8月16日(月)から
令和4年1月6日(木)までの間、
文京ふるさと歴史館は空調設備等の
工事により休館いたします。

令和3年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

令和3年(2021)9月1日発行

編集・発行: 文京区アカデミー推進部アカデミー推進課
文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221
https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/

印刷物番号 D0121008

◎森鷗外記念館

特別展「観潮楼の逸品—鷗外に愛されたものたち」

文具・机・印章・喫煙具・旧蔵書など「鷗外が使ったものたち」と、絵画・書・記念品など「観潮楼を飾ったものたち」との二部構成で、当館が所蔵する鷗外旧蔵の品々を一挙に展示しています。会期を延長して9月12日(日)までの開催です。

会 期: 開催中~9月12日(日)会期延長 観覧料: 500円(20人以上の団体400円)

コレクション展

「生誕110年・没後30年 森類—ペンを執った鷗外の末子」

鷗外の三男として生まれた類は、わずか11歳で鷗外が死去した後、10代から絵画を学び、戦後は文筆活動にも積極的に取り組みました。身近な出来事を題材に詩や小説、そして多くのエッセーを発表しています。2014年、当館はご遺族より類の遺品資料約6,400件の寄贈を受け、以降、資料整理と調査を続けています。不器用でも誠実に歩んだ類の生涯と文筆活動を、寄贈資料をとおして紹介します。

会 期: 令和3年9月17日(金)~12月27日(月) 休館日: 9/28、10/26、11/24

観覧料: 300円(20人以上の団体240円)

※11/1の開館記念日は、展覧会観覧者全員にポストカードをプレゼント。



類(7歳)と鷗外(56歳)
大正7年撮影



類自筆原稿「不肖の子」
昭和25年発表

同時開催: コーナー展示「於菟、茉莉、杏奴—類の兄姉」

類の兄・森於菟(医学博士)、二人の姉・森茉莉(小説家)、小堀杏奴(随筆家)について、随筆集などをとおして紹介します。

令和4(2022)年 森鷗外生誕160年・没後100年。開館10周年を迎えます!

問合せ: 文京区立森鷗外記念館
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
TEL 03-3824-5511 https://morigai-kinenkan.jp
開館時間: 10時~18時(最終入館17時30分)
※中学生以下、障害者手帳提示の方と介護者1人は観覧料無料

辞書の編纂に携わった言語学者の金田一京助などを顕彰します。
今年度は、岩手県盛岡市に生まれ、アイヌ語の研究や国語教科書・それら文化人を顕彰し、文京区の多様な文化的資源を広く発信します。
様々な分野の文化人が足跡を残した文京。



令和3年に記念の年を迎える
主なゆかりの文化人

- 宇野浩二 ———— 小説家 [1891-1961] 生誕130年 没後 60年
- 岡野貞一 ———— 作曲家 [1878-1941] 没後 80年
- 岡麓 ———— 歌人・書家 [1877-1951] 没後 70年
- 大橋乙羽 ———— 編集者 [1869-1901] 没後120年
- 小川未明 ———— 小説家 [1882-1961] 没後 60年
- 荻野吟子 ———— 医師 [1851-1913] 生誕170年
- 小山内薫 ———— 演出家・劇作家 [1881-1928] 生誕140年
- 梶井基次郎 ———— 小説家 [1901-1932] 生誕120年
- 河鍋曉斎 ———— 浮世絵師・日本画家 [1831-1889] 生誕190年
- 金田一京助 ———— 言語学者 [1882-1971] 没後 50年
- 葛原しげる ———— 教育者・作詞家 [1886-1961] 没後 60年
- 久米正雄 ———— 小説家 [1891-1952] 生誕130年
- 渋沢栄一 ———— 実業家 [1840-1931] 没後 90年
- 田宮虎彦 ———— 小説家 [1911-1988] 生誕110年
- 田山花袋 ———— 小説家 [1871-1930] 生誕150年
- 土井晩翠 ———— 詩人・英文学者 [1871-1952] 生誕150年
- 徳田秋聲 ———— 小説家 [1871-1943] 生誕150年
- 林芙美子 ———— 小説家 [1903-1951] 没後 70年
- 平塚らいてう ———— 思想家・評論家 [1886-1971] 没後 50年
- 堀口大学 ———— 詩人 [1892-1981] 没後 40年
- 宮本百合子 ———— 小説家 [1899-1951] 没後 70年
- 村川堅太郎 ———— 西洋史学者 [1907-1991] 没後 30年
- 森類 ———— 小説家・随筆家 [1911-1991] 生誕110年 没後 30年
- 横溝正史 ———— 小説家 [1902-1981] 没後 40年
- 吉岡彌生 ———— 教育者・医師 [1871-1959] 生誕150年
- 魯迅 ———— 小説家・翻訳家 [1881-1936] 生誕140年



荻野吟子 所蔵:東京女子医科大学
吉岡彌生 所蔵:東京女子医科大学



金田一京助 提供:盛岡市先人記念館
徳田秋聲 提供:徳田秋聲記念館



岡野貞一
出典:「日本基督教団
本郷中央会堂教会百年史」
提供: 日本基督教団
本郷中央会堂教会

生誕170年 **荻野吟子** [おぎの・ぎんこ] (1851~1913) 医師



荻野吟子
所蔵: 東京女子医科大学
■熊谷市立荻野吟子記念館 (荻野吟子生誕之地史跡公園内) 埼玉県熊谷市俵瀬581-1 TEL/FAX 048-589-0004
■荻野吟子顕彰碑(荻野吟子小公園内) 北海道久遠郡せたな町瀬棚区本町9区 TEL 0137-87-3311 (管理者連絡先: せたな町瀬棚総合支所)

嘉永4年(1851)、武蔵国幡羅郡俵瀬村(現・埼玉県熊谷市)生まれ。明治12年(1879)、東京女子師範学校(現・お茶の水女子大学)を卒業後、私立の医学校、好寿院で医師としての素養を習得しました。女性が医術開業試験を受験する事すら認められていなかった明治年間の初期に、女性医師の必要性や歴史上に女医が存在していた事実などを訴え、制度改正に奔走しています。明治17年(1884)に医術開業試験前期試験、翌年には医術開業試験後期試験に合格し、日本における公許女医第一号となりました。本郷区湯島三組町(現・文京区湯島2丁目)で荻野医院を開業し、弓町教会(文京区本郷1丁目)で、海老名弾正神父から洗礼を受けています。神父である夫、志方之善の布教に同行して北海道瀬棚町(現・北海道せたな町)に移住、医院を開き、夫の病没後は再び東京へ戻りました。大正2年(1913)、63歳で病没、雑司ヶ谷霊園(現・豊島区南池袋)に弔われています。

生誕150年 **吉岡彌生** [よしおか・やよい] (1871~1959) 教育者・医師



吉岡彌生
所蔵: 東京女子医科大学
■掛川市吉岡彌生記念館 静岡県掛川市下土方474 TEL 0537-74-5566 FAX 0537-74-4841
■東京女子医科大学史料室・吉岡彌生記念室 東京都新宿区河田町8-1 TEL 03-3353-8111 (代表)

明治4年(1871)、遠江国土方村(現・静岡県掛川市)生まれ。明治22年(1889)、18才の時に、本郷区湯島(現・文京区湯島1丁目)に所在した済生学舎(現・日本医科大学)に入学、翌年5月、医術開業試験前期試験、同25年には後期試験に合格、公許女医第27号(医籍番号第6898号)となりました。済生学舎在学中は、旧本郷区内の下宿数か所に暮らしています。本郷区東片町(現・文京区向丘1丁目)で個人医院を開業する傍ら、跡見学校(現・跡見学園女子大学)で国文学などを修め、更に本郷区元町(現・文京区本郷1丁目)に所在した吉岡荒太の私塾、東京至誠学院でドイツ語を習得しました。明治28年には吉岡荒太と結婚、飯田町に東京至誠医院を開業した後、明治33年には東京至誠医院の一室に東京女医学校(現・東京女子医科大学)を開学、女性医師育成の礎を築いています。また後進の育成のみに留まらず、荻野吟子の逝去時や女医誕生記念祝賀会において荻野吟子を顕彰し、また、日本の近代医学の黎明期にドイツ式医学の導入に尽力した相良知安の顕彰会においても力を尽くすなど、先達の顕彰活動にも大きな役割を果たしています。

※関連機関・施設の開館状況や、利用等に関するお問い合わせは、それぞれの機関にお尋ねください。

没後50年 **金田一京助** [きんだいち・きょうすけ] (1882~1971) 言語学者



金田一京助
提供: 盛岡市先人記念館
■盛岡市先人記念館 (金田一京助記念室) 岩手県盛岡市本宮字蛇屋敷2-2 TEL 019-659-3338

明治15年(1882)、岩手県盛岡市生まれ。盛岡中学校の後輩に石川啄木がいました。アイヌ語の研究をおこなった言語学者で、國學院大学、東京帝国大学などで教鞭をとり、三省堂『明解国語辞典』の監修者としても知られています。明治37年、帝国大学文科大学入学を機に上京し、本郷区湯島新花町(現・文京区湯島3丁目)、続いて菊坂町の赤心館(現・文京区本郷5丁目)に下宿しました。明治41年、上京した啄木が赤心館の京助の部屋に入り、やがて二人して森川町(現・文京区本郷6丁目)の蓋平館別荘に移りました。明治42年に下宿の隣に住む林静江と結婚し、本郷追分町(現・文京区向丘2丁目)に移り、その後妻の実家に移り、大正5年に同町内で独立しました。同じく森川町に住んだ徳田秋聲とは、近所の銭湯で一緒になることも多かったそうです。大正11年に真砂町(現・文京区本郷4丁目)に移り、その後転居しました。昭和46年、妻の生家に近い本郷六丁目のマンションにて逝去し、喜福壽寺に葬られました。現在は雑司ヶ谷霊園に墓所が営まれています。

生誕150年 **徳田秋聲** [とくだ・しゅうせい] (1871~1943) 小説家



徳田秋聲(昭和初期)
提供: 徳田秋聲記念館
■徳田秋聲記念館 石川県金沢市東山1-19-1 TEL 076-251-4300

明治4年(1871)、金沢県金沢町第四区横山町(現・石川県金沢市横山町)生まれ。本名末雄。第四高等中学校中退後、文学を志し上京。紆余曲折を経て、泉鏡花の勧めで尾崎紅葉の門に入ります。『新世帯』『足迹』『儼』『あらくれ』『仮装人物』『縮図』ほか、明治・大正・昭和と長きにわたり膨大な作品群を生み出し自然主義文学の代表的存在とされています。文京区域には、本郷区向ヶ岡弥生町(現・弥生2丁目)、小石川区小石川表町(現・文京区小石川3丁目)などに居住。明治39年春に転居した本郷区森川町(現・文京区本郷6丁目)は、亡くなるまでの37年余りを過ごし、終の棲家となりました。長く生活した文京区域を舞台とした作品も多数あります。



東京都指定史跡 徳田秋聲旧宅 (文京区本郷6-6-9) ※通常は非公開

没後80年 **岡野貞一** [おかの・ていいち] (1878~1941) 作曲家



岡野貞一
出典:『日本基督教団 本郷中央会堂教会五十年史』
提供: 日本基督教団 本郷中央会堂教会
■鳥取童謡・おもちゃ館わらべ館 鳥取県鳥取市西町3-202 TEL 0857-22-7070 FAX 0857-22-3030

明治11年(1878)、鳥取県邑美郡古市村(現・鳥取市)生まれ。明治33年(1900)、東京高等師範附属音楽学校(現・東京藝術大学音楽学部)を卒業後、小石川区中富坂町19番地(現・文京区小石川2-9周辺)に居住、本郷中央会堂教会(文京区本郷3-37-9)の信者として、教会のオルガン奏者を務めました。明治38年(1905)には東京音楽学校(現・東京藝術大学)助教授、大正12年(1923)には同校の教授となっています。童謡「桃太郎」や、唱歌「故郷」、「春の小川」、「春が来た」などの作曲家としても著名です。岡野と同時代に生きた鳥取出身の音楽家、田村虎蔵、永井幸次と共に「鳥取の音楽家たち」として『鳥取童謡・おもちゃ館わらべ館』に記念顕彰室が設けられています。

※関連機関・施設の開館状況や、利用等に関するお問い合わせは、それぞれの機関にお尋ねください。

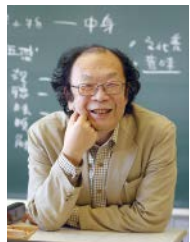
文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

●文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

歴史講演会「金田一京助の仕事と文京区」

学生時代から長く文京の地に住んだ言語学者、金田一京助。その業績について子孫の金田一秀穂氏にお話をさせていただきます。

日 時: 令和3年12月12日(日) 14時~16時(予定)
講 師: 金田一秀穂氏(金田一京助令孫・杏林大学教授)
会 場: 文京区民センター3A会議室(文京区本郷4-15-14)
対 象: 高校生以上
定 員: 80人(超えた場合は抽選) ※CATV収録予定
参加費: 無料
申 込: 区報・区ホームページでお知らせします。



金田一秀穂氏
撮影: タカオカ邦彦氏

史跡めぐり「文化人ゆかりの地・本郷をめぐる」(仮)

日 時: 令和3年12月2日(木) 13時30分~16時(予定)
※ルート等が決定しましたら区報・区ホームページでご案内します。

開館30周年記念特別展「初全公開! 駒籠八景十境詩画卷-ぶんぎょうの大名屋敷-(仮)

会 期: 令和4年2月5日(土)~3月21日(月)(予定)
会 場: 文京ふるさと歴史館 地下1階特別展示室
入館料: 100円(20人以上の団体70円)

問合せ: 文京ふるさと歴史館 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221

開館時間: 10時~17時
休 館 日: 月曜(祝日の場合は翌日)、第4火曜日
令和3年8月16日(月)~令和4年1月6日(木) 工事休館
※中学生以下・65歳以上・友の会会員、身体障害者手帳等提示の方と介護者1人は入館料無料

